平成 31年　2月　25日

研修報告書

氏名：阪下達哉

所属：埼玉県立小児医療センター(当時)

(現在は岐阜県総合医療センター)

研修期間：平成　30年　9月 11日

研修場所：信州大学医学部遺伝医学教室

受講動機：

私は小児科のサブシペシャリティーとして臨床遺伝専門医の取得を目指しており、埼玉県立小児医療センターで6か月間の研修をさせて頂いていました。もともと所属していた病院では臨床遺伝専門医もいないため、初めて遺伝診療というものに触れることができました。その中で小児領域に限らない遺伝診療・遺伝カウンセリングを見学したいと思い、この度インテンシブコースに応募させていただきました。

研修内容：

午後の遺伝カウンセリング外来(古庄先生)の見学

夕方にカンファレンスの見学

研修成果：

小児、周産期、成人の心筋症、家族性胃がんなど幅広い外来診療を見ることができ、遺伝診療がカバーする領域の広さと奥深さを学ぶ良い機会になりました。遺伝の外来というと一般の人には抵抗がありそうですが、家系図に関わる情報を聴取しながら家族との心理的距離を縮める古庄先生の問診技術に驚きました。

その他（感想・要望・反省点、等）：

自分の専門は小児科ですが、勤務している病院は総合病院であるため小児に限らず幅広く学ぶ必要があると感じました。1日のみの見学(インテンシブコース)でしたが、まとまった期間で学ぶ機会があればと感じました。